

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891300166
法人名	医療法人 健康会
事業所名	グループホームいしかわ
所在地	四国中央市上分町861番地20
自己評価作成日	平成28年10月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp
----------	---------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成28年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階には保育園があり、世代を超えた楽しい交流を持つ事ができている。また近隣には関連施設の特養・ケアハウスがあり交流行事も多く、同世代の人や地域の人との交流の場にもなっている。また、母体が医療機関であるため、看護師やリハビリ職員の訪問もあり、医療面に関しては家族や入居者の安心につながっている。住み慣れたグループホームで最期を安らかに迎えられるように看取りの実施も積極的に取り組んでいる。今年度は1名の方の看取りを支援した。共用型デイサービス・ショートステイの受け入れも行っており、入居者と地域の利用者がグループホームで交流できる事業所であることが当事業所の大きな特徴である。また今年度は運営推進会議において、「防災について」テーマを絞って一緒に取り組んでいる。防災に関しては運営推進会議の場だけでなく、こちらから地域の防災会へ参加して災害に対する知識を向上させており、地域の方(防災士)の協力を得ながら前向きに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、静かな山あいであり四季の移ろいを感じることができる。近隣には、関連施設の特別養護老人ホームやケアハウスがあり、鉄筋2階建ての建物で、1階には保育園があり、2階がグループホームとなっている。法人は地域の医療、福祉事業を広く展開しており、職員の研修参加や指導体制についても、法人として確立されたものがあり、施設内外の勉強会への参加の機会が豊富である。事業所は出産後も仕事が継続できるよう子育て支援体制を整えている。運営推進会議に多くの住民の参加があり、地域の防災訓練に参加し災害対策への積極的な取り組みを行うなど、地域との繋がりを築いている。共用型デイサービスを開始し、地元のデイサービス利用者と日中一緒に過ごしながら、和やかな雰囲気でもらしている。医療面では、母体が医療機関のため、訪問看護や往診等の医療連携が充実しており、利用者の健康状態も管理され重度化が進み終末期になっても事業所で暮らし続けたいと希望する利用者が多く高く評価できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームいしかわ

(ユニット名) かえで

記入者(管理者)

氏名 大倉 やよい

評価完了日

平成 28 年 10 月 31 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 私たちの理念は「ゆっくり・楽しく・いっしょに」であり、覚えやすい文言に職員で話し合っ決めて。共用デイサービス開始で、日々違う個性の方達がふれ合う機会を持つことができおり、入居者様の一人ひとりのペースに合わせるケアの提供やコミュニケーションを大切にして、心穏やかに暮せる環境作り、自立支援に取り組んでいる。理念はフロアの目に付くところや玄関に掲示しており、職員会で日頃の介護の反省や今後の取り組みを一緒に検討している。</p> <p>(外部評価) 「ゆっくり」「楽しく」「一緒に」の理念を、職員が話し合いで決めて、事業所のよく見える場所に掲示する他、パンフレットにも記載され、利用者や家族に周知するよう工夫されている。新人職員には、入職時に理念の趣旨を説明し共有するようにしている。職員会で理念について話し合いを行い、利用者の日々の暮らしを支えている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 法人が地域との交流を大切にしており、他事業所と合同敬老会・盆踊り会・そうめん流し・六地藏法要・秋祭りなどで、地域の方と交流している。近隣に民家は少ないが地域の方に事業所に来てもらう取り組みをしている。月1回の音楽療法のボランティア来所時は、法人の他デイサービスの方の参加もある。また1階の附属保育園児との交流会、小学生との七夕会や運動会参観、高校生のインターンシップ受け入れは恒例となっている。また共用デイサービスの方が毎日利用されており、日々地域の話題が豊富となり「地域とつながっている」思いをもって生活できるように支援している。</p> <p>(外部評価) 母体法人の老人保健施設に来所する秋祭りの太鼓台や神輿を見学に行き地域住民と交流している。事業所1階の保育園との交流や小学校の七夕会や運動会などの行事への参加、小学生の体験学習で訪問があり、昔の遊びをしたりして利用者の楽しみとなっている。福祉や高齢者介護に興味のある高校生を夏休みの3日間インターンシップで受け入れをしたり、専門学校や音楽療法のボランティアの訪問などもある。地域の運動会の玉入れに参加したり、共用型デイサービスを利用する地元の利用者と日中一緒に過ごすなど、地域住民との交流を積極的に行っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 高校生のインターンシップ受け入れを行い、介護や認知症に対する理解が深められるように貢献している。2年前にインターンシップを経験した高校生が、今年度法人の老人保健施設に入職した。グループ内で「地域で認知症の人を支える」チーム「みかんの会」を発足しており、職員がリーダーとして運営に携わっている。地域の方対象の「認知症カフェ」の開催や地域の方と一緒に「認知症勉強会」の開催を行なっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>入居者様の変化やグループホームの取り組み等を報告し、それに対するご意見をいただいている。地域で困っている認知症の方の話題にもなり、「認知症の対応の仕方」の勉強会も実施した。</p> <p>今年度は、防災に対する取り組みを中心に運営推進会議を開催している。地元の方ばかりなので、グループホーム周辺の立地条件や環境を一緒に見て回っていただいて留意箇所を指導していただいたり、地域の防災会の情報をいただいて参加させていただいている。また消防署出前講座「地震・防災対策講座」をグループホームで開催し、一緒に参加していただいた。</p> <p>今後は、運営推進会議で災害避難訓練を実施し、グループホームの自主的な災害対策と一緒に考えて、マニュアルに生かすことができるように計画している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議には、利用者や家族、消防団員、老人会、婦人会、公民館長、民生委員、市職員、養護老人ホーム看護師、神社の総代等様々な参加を得ている。会議では利用者情報及び行事報告を行うと共に、年間計画を立てたり、災害をテーマにした講演等を行うなど、会議の充実を図っている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>市消防署主催の出前講座「防災」「救命救急」を開催して市と連携がとれる取り組みをしており、当事業所に特化した取り組みの助言をもらっている。またキャラバンメイトの資格のある職員が、市からの依頼で「認知症サポーター養成講座」で講師を務めており、地域で認知症理解が進むように協力関係を築いている。毎月1回、ふれあい相談員の訪問もあり。</p> <p>グループで「認知症カフェ」を開催しており、職員がこの取り組みに参加しており、市の方へも浸透している。地域の方に「認知症理解」「認知症介護で困ったら相談ができる」態勢作りをグループで取り組み、グループホーム職員も参加・協力している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議に市担当者が参加し事業所の実情を把握するほか、情報の提供や助言を行っている。毎月ふれあい相談員が訪問し、利用者との会話で大事な情報は職員に伝えておりサービス向上に繋がっている。グループホームの交流会があり、他の事業所との情報交換も行っている。事業所職員が認知症サポーターに登録しており、年1～2回のペースで市の開催する「認知症サポーター養成講座」で講師を担うなど、地域住民に認知症の理解が深められるよう努めている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>身体拘束に関しては外部研修に出かけ、伝達講習・勉強会を実施している。全職員が「身体拘束は絶対にしてはならない」意識を常に持ちつつ理解を深めている。「こういう行為は身体拘束にならないか。その支援は適切なのか。」と普段の何気ない支援についても職員同士で振り返り、利用者の立場に立った身体拘束のない支援を常に意識付けしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>法人内のリスク委員会が月1回あり、職員が参加し身体拘束について理解を深めると共に、外部研修に参加し、職員会で伝達講習や勉強会をするなど取り組んでおり、全職員に身体拘束をしないケアが根付いており実践できている。言葉の拘束にもなる「ちょっと待って」などに関しても、職員間で話し合いを行い共有できている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 外部研修を受けて伝達講習して理解を深めている。また四国中央市で作成した「高齢者虐待マニュアル」を活用したり、「高齢者虐待防止法」の勉強会も開催している。何気ない言葉かけやコミュニケーションをとる際も利用者の尊厳を大切に、あらゆる面から虐待行為ではないか振り返るようにしている。同時に職員のストレスについても留意し、気持ちの発散ができるように話し合う機会を持っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護や成年後見制度の勉強会を実施し、学ぶ機会を設けている。現在活用される入居者様はいないが、今後必要性の高い方がいる場合は、速やかに活用して支援できるように研修を継続する。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前にはご家族とご本人様に来ていただき、見学していただいてよく検討していただいてから契約を結んでいる。施設的环境や生活様式、グループホームの支援等を説明させていただいている。体験利用を希望される方には体験していただき、納得した上で契約をしていただいている。契約時は説明項目のチェック表を利用し、説明忘れが無いように留意している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会のあるご家族も多く、面会時は状況報告を必ずしている。また毎月ご家族にお便りを送付し、入居者の様子報告をしている。アンケートも実施しており、要望をケアに生かせるように取り組んでいる。「リハビリができたら・・・」というご家族の希望もあり、法人訪問リハビリ職員の協力のもとADL低下防止のために定期でグループホームへの訪問があり、医療スタッフとも連携している。 (外部評価) 利用者には日々の暮らしの中で、家族には面会時や運営推進会議等で要望や意見を聞き記録に残し職員間で話し合い、サービス向上に生かしている。また、家族アンケートを実施し意見や要望を集約するほか、年2回家族会を開催し、イベント後に各ユニットで茶話会を行い、家族同士で話し合ったり職員も参加し個別に話すなど、和やかな雰囲気の中で交流している。年2回いしかわ便りを発行しそれを家族に送付し、利用者の日常生活の様子を報告している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 管理者も現場の介護をしており、職員と同じ立場での利用者様へのケアや課題に気づくようにしている。また、少しでも負担軽減できるように職員の意見を聞く機会を多く持っている。利用者の支援に関することはリーダーが中心になって必ずユニットで話し合っている。直接管理者に意見を言い難い職員には、リーダーをワンクッションにしている。職員の思いを聞き、相談しやすい人材をリーダーとして配置している。法人本部長や次長もグループホーム職員会に参加する機会があり、直接意見を伝えることができる。</p> <p>(外部評価) 職員全員と法人代表者も参加の職員会を毎月1回開催し、運営に関する意見を出し合い代表者に職員の業務状況等を把握してもらったところ、現場の意見を反映し調理専属の職員配置に繋がった経緯もある。年2回管理者と職員は個人面談を行い意見を聞く機会を設けている。職員が資質向上を図るための研修に参加しやすいよう、参加費の補助や勤務調整を行うなどの配慮がある。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 人事考課制度を導入している。有資格者には手当を支給したり、夜勤手当を増やした。また勉強会の講師になった職員や受講した職員にも手当を出すなど、法人全体で取り組んでいる。ケアマネ・介護福祉士取得のためにグループ内で試験対策講座を開いて、向上心をもって働けるように支援している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 人事考課制度を導入し、管理者含め一人ひとりの力量を把握している。資格取得に向けた支援や外部研修は本人の自主性を尊重して参加できるように支援している。グループ内勉強会・外部研修に関する情報は回覧で各職員に情報提供している。部署内・法人勉強会は、年間計画を立てて実施し、介護技術の向上・認知症ケアの向上・リスク・感染予防など、介護職として働く上で知識向上に繋がるテーマで教育している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 市内でグループホーム交流会を設立し、3ヶ月に1回の勉強会・情報交換を持ち回りで開催している。また今年度からは、グループ内の3グループホームが集まり、職員交流や情報交換などでネットワーク作りをしている。また、愛媛県地域密着型サービス協会に入会しており、研修会に参加し、他グループホームとの意見交換もして当事業所に活かすことができないか検討している。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) サービス前は見学・体験利用等をして頂き、本人とじっくりコミュニケーションを図って、思い・要望に耳を傾けている。デイ利用からショート利用、そして入居となった方がいた。デイ・ショートですでに本人と信頼関係も築けており、なじみの関係を構築しながら入居につなげることができた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 自宅訪問・利用中のサービス事業所・担当ケアマネからそれぞれが得ている情報に耳を傾けている。 またデイ利用の方が入居になる場合もあり、すでに家族の困っていること・不安なことなどを相談にのりながら支援しているので、入居時は家族とも信頼関係を築く事ができている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居初期段階では、これまで関わってきた担当ケアマネ・他事業所との情報交換を行い、背景にある問題を見極めたり支援内容を検討して支援に活かしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活を送りながら、会話を大切にしながら顔なじみの関係を築くことを大切にしている。いっしょに洗濯干し・畳み、掃除、調理、食器洗いなど利用者ができることを、一緒に楽しみながら行っている。主婦の大先輩として、家事や子育ての話聞いていただいたり相談相手になっていただき、お互いに寄り添う関係作りを築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族に勝る介護者は無く、これまでの苦労や葛藤を心に留めて、家族や利用者支援している。そのため家族には利用者の様子をきめ細かく伝え、相談をしているため、一緒に利用者を支える協力体制を築く事ができている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 職員が支援できない点に関しては、家族協力のもと、家族と一緒に外食・お墓参り・地区敬老会・趣味の刺繍展への外出支援等がある。馴染みの美容室への外出は美容室の方のお送り迎えがあり、美容室でゆっくりお茶を飲んで楽しい時間を過ごされている。入居前の生活習慣を大切にしている。 外出先に関しては、本人の日常発せられる言葉から汲み取って馴染みの人に会える支援もしている。 外出が難しい利用者には、面会に来てくれる地域の人もいる。	
			(外部評価) 入居前から利用していた馴染みの美容室の利用は、美容室が送迎をし、ゆっくりとお茶を飲んで会話を楽しめるなどの配慮があり、継続できるよう支援している。家族の協力を得てお墓参りや自宅に帰り地域のサロンに出かけることができている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 居室にいる利用者には必ず声かけをして、孤立しないように支援している。また仲の良い人同士で会話したり食事したりできるように、食堂やソファの座席には十分留意している。利用者同士の関係性は理解しており、コミュニケーション可能な人に関しては好きな席を聞いて配慮し、意思疎通が困難な人に関しては表情や性格を汲み取って座席を配慮している。 デイが開始され新しい関係性も広がっている。活動的で社交的なデイの方が、入居者の気持ちに寄り添ってくれる場面も多い。 時に意見のぶつかり合いもあるが、それも「自分の思いを表現することができる」大切なことであり、大きなトラブルにならないようにまた辛い気持ちを継続しないように見極めて支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居された方には色紙等を持って面会に行っている。また他施設に入所された場合は、その施設にその後の様子等を聞いたり必要な情報を提供している。入院中に退居となった方は、今後のサービスについて主治医や家族・病院相談員・施設職員等とも連携をとって支援している	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 普段何気ない会話も大切にし、利用者の思いの把握に努めている。ちょっとした要望でもすぐに耳を傾け、職員間で思いの実現につなげられるように取り組んでいる。家族からの情報も職員間で共有して本人の意向把握に努めている。思いを伝える事が困難な場合は表情から汲み取って、返答しやすい質問にしたり職員を交代するなどの工夫をして、本人気持ちに沿った支援をしている。 (外部評価) 利用者の思いや意向を把握するため、日頃の会話や家族からの情報などから、利用者が何がしたいか等常に考えながら把握に努めている。新たに知り得た情報は、職員間で共有し業務に生かしている。意思疎通が困難な利用者は表情から汲み取るなど、利用者の思いや意向が叶えられるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴やライフスタイルを、家族にも協力してもらって情報を得ている。また、利用していたサービス事業所やケアマネからも情報を得ている。また、普段の何気ない会話の中からその人の馴染みの暮らし方などがわかる時もあり、職員間でその情報は共有して支援につなげている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その日その日の利用者の心身状態（排泄・睡眠・食事・気持ちの変化等）を、日々職員間で情報共有している。1日の過ごし方の決定は本人にある。無理強ひせず、できない部分を介助しながら見守りながら支援している。ADLが低下している利用者に対しては、法人の訪問リハビリスタッフに協力してもらい、少しでも出来る事を見つけて継続できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 人生の主役は利用者である事を忘れずに、日々の利用者や家族との関わりの中で、利用者の言葉や気づきを大切に記録に残し、介護計画に反映している。日々の記録は利用者が発した言葉を残すように心がけている。毎月1回のフロア会では意見交換やモニタリングを行い、状態が変化した場合はその都度介護計画の見直しをしている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の意見を反映し職員間で話し合いを行い、計画作成担当者が介護計画を作成している。介護記録の実践記録を確認し、月に1回モニタリングを行い検証している。また、6か月毎に介護計画の見直しを行い、状態の変化があればその都度見直しを行っており、介護計画は面会時に家族に説明し同意を得ている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 利用者の日々の記録は、個々の処遇記録や支援経過に記載して情報を共有している。ケアの気づきや工夫などは申し送りノートを活用して共有している。個別記録等をもとにフロア会では職員間で意見を出し合い、今後の支援内容や介護計画の見直しにつなげている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 看取り利用者に関しては、家族が宿泊を希望された場合はそのニーズに応えたり、主治医の話を聞きたいと希望された場合はその日のうちに主治医に往診していただく連携をとった。歯科受診が困難な利用者の場合は往診を依頼した。また、ADLが低下している利用者に関しては、訪問看護と連携して定期でリハビリ職員に来てもらい助言をもらっている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域の音楽ボランティアの協力を得て、定期で音楽療法を支援している。関連事業所デイと一緒に交流しながらの活動であり地域の高齢者との交流にもつながっている。日々の生活では地域の美容室に出かけたり、運営推進委員の方や家族が気軽に野菜を届けてくれたり、地区の小学校から運動会の招待を受けて参観したりしている。今後は小学校で開催される地区の防災会に参加する予定もある。地域との関わりを大切に支援する取り組みをしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 母体医療機関が主治医である利用者が多いが、母体病院以外の受診も可能な限り 同行している。主治医には情報提供に努めている。家族との受診の場合は、体調 面の情報提供を十分に家族に行い、受診後の医師からの診察内容を家族から聞いて 記録し、職員で共有している。歯科受診が困難な利用者には歯科医の往診、歯 科衛生士の訪問も支援している。 (外部評価) 母体医療機関が主治医である利用者が多く、病院受診は家族の協力も得ながら職員 が付き添い支援している。耳鼻科や眼科等の専門外来に通院する場合は、家族 と相談し職員が付き添うなど支援しており、医療情報は家族も共有できている。 また、歯科医の往診や歯科衛生士の訪問もあり、適切な医療が受けられるよう努 めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 医療連携にて、法人の訪問看護師が訪問している。体調や些細な変化を見逃さない ように早期発見に取り組んでいる。気づいたことがあれば看護師に相談して適 切な医療につなげたり、介護に対する助言を受けている。24時間対応であるた め夜間も必要に応じて訪問したり、早急で適切な対応ができるように看護師と協 働している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は医療機関へ情報提供を行い、グループホームでの状態・認知面について 詳しく伝えている。入院中も頻回に病院へ行き状態を把握している。医師・看護 師・ソーシャルワーカー・リハビリ・栄養士等と退院に向けての情報交換をし、 できるだけ早期の退院につなげられるように支援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 「終末期意向確認書」を作成し、入居前より本人・家族と話し合いを個別に前もって意向 を確認している。しかし家族の気持ちは揺れ動く事が多い事を理解し、本人の状態が悪化 したりADLが低下しつつある時は、その都度話し合いを持つようにしている。家族は医 師からの病状説明を直接受ける事ができるように主治医とも連携を図り、家族の意向を確 認しながら「看取りに関する指針」を再度説明している。終末期に関する勉強会を開催 し、外部研修・伝達講習を行うことで職員間で看取りに関する取り組みを共有できるよ うにしている。訪問看護師とも日々連携を図っており、一昨年は2名、今年度は1名の方 の看取りを支援した。スタッフ・家族に対してアンケートを実施し、看取り前後の不安や反 省、家族の気持ちを共有する事で今後の看取りに活かすことができるように取り組んでい る。今年度は訪問看護師ともデスカンファレンスを開催し、チームで支援する事の重要さ を再認識した。 (外部評価) 事業所での終末期ケアを希望する場合は、医療機関や訪問看護等と医療連携を図 り、協力を得ることができている。医療関係者や家族の協力を得ながら看取りを 経験した職員もおり、利用者や家族が納得し安心して最期が迎えられるよう支 援している。また、看取り後に家族と職員にアンケート調査を行っており、結果に ついて職員全員で話し合い職員の不安の軽減や家族の思いや意向に沿った支援が できるような体制づくりを行い、終末期ケアの充実に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生時対応マニュアルを作成し周知している。看取りの場合は、もっと細部の対応方法を作成し全員がすぐ対応できるように取り組んだ。また、緊急時の初期対応ができるように消防出前講座「救命救急」を受講し、実践力を身につける取り組みをしている。緊急時の対応に不安があっても24時間訪問看護師との連携ができており、的確な助言を受ける事ができるので職員の不安は少ないので、急変時は落ち着いて対応できている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 夜間想定で消防署立会いの消防避難訓練（総合訓練）を年2回実施している。また今年度は運営推進会議において「グループホームの災害時の対応」についてテーマを絞って取り組んでいる。消防出前講座で「地震防災対策講座」を一緒に受講したり、「自分たちのグループホームはまず自分たちで守る」姿勢で地域の方に意見を聞きながら取り組んでいる。グループホーム周辺を見回って危険か所がないか助言をいただいたり、災害避難訓練を推進委員のみならず防災会の方に見ていただき助言をいただく計画がある。職員も積極的に地域主催の防災会に参加して、防災に関する知識を増やしている。 (外部評価) 年2回の避難訓練を消防署立会いで実施している。運営推進会議でも議題に取り上げ、参加者から意見を出し合い改善への取組みを行っている。事業所の災害防止マニュアルを防災の専門家からアドバイスを受け見直したり、備蓄品も完備されており緊急時の対策もできている。職員が地域の防災訓練にも積極的に参加するなど、地域との連携も図っている。災害時の緊急連絡網は整備されているが、実践訓練は行っていないので今後の課題である。	災害時の地域の防災会との協力体制は構築されている。職員の災害対策についての意識は高く、緊急連絡網を整備し職員の連絡手順は伝えているが、実践には至っていないため、連絡体制の再確認をする意味でも実践訓練を行い職員に周知徹底ができることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) その人に合った言葉かけを心がけている。排泄時はさりげない声かけをし、尊厳を大切にされた対応を心がけている。入浴時や入室の場合もプライバシー保護に努めている。男性職員を嫌がる利用者には女性スタッフでの対応をしている。利用者の呼び方に関しては、方言を使いながらも留意しその人が安心する呼称の仕方に対応しており、統一した呼称の仕方をするように取り組んでいる。また今年度より法人で「接遇チェックリスト」を毎月自己評価・他者評価する取り組みをしており、利用者を尊重する姿勢を振り返り向上できるようにしている。 (外部評価) 職員は思いやりのある言葉遣いをするよう心がけ、尊厳と羞恥心に配慮したケアに努めている。法人の教育部長の指導のもと「接遇チェックリスト」により、毎月自己評価を行うなどの取組みを行っており、職員一人ひとりに意識付けができている。また、個人情報については厳重に管理されており、取り扱いについても十分留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 普段の何気ない会話から、思いや希望（食べたい物・行ってみたいところ・やってみたい事等）を聞きだせるようにコミュニケーションを図っている。また、言葉には表現できなくても表情などを注意深く見させていただき、本人の思いをキャッチできるように関わっている。職員会・フロア会では各職員が情報を持ち寄って、本人の思いをひもときながら支援内容を共有できるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的に1日の流れはあるが、体調や気分配慮しながら支援している。お風呂は中止したい・もう少し眠りたい・夜もテレビを観たい・家族の声が聞きたい・今押入れの整理をしたい・となりのフロアに行きたい・今日は栗拾いに行きたい・・・などその時の気持ちを大切にしながら、1日のペースを大切にしながら一人ひとりに合わせて支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 馴染みの美容室でカラー・カットしたり、自宅に帰って家族に毛染めしてもらったり、訪問美容師が来た時はお気に入りのヘアスタイルが維持できるように協力を仰いでいる。大好きなお気に入りの洋服がすぐ着れるようにさりげなく準備したり、家族の協力で洋服を買いに出かけたりもしている。受診時はおしゃれしたい人には、受診に行く事を前もって伝えておき、ゆっくりお気に入りの洋服を選んだりお化粧ができるように見守って支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理専属の職員はいるが、食事を作るだけではなく台所に立ちたい利用者がいた場合は、一緒に利用者としてできるような支援をしている。メニューの基本は法人管理栄養士が立てているが、自然に囲まれた立地条件もあり、近隣の山で採った季節の栗や筍などは一緒に下ごしらえして献立を考え、職員と一緒に食卓を囲んで季節を感じながら楽しく食べる事ができている。家族が差し入れしてくれる野菜は、その利用者が中心となって下ごしらえしたり調理をしている。 (外部評価) 法人の管理栄養士が献立を立て、食材は法人で注文し配達されており、各ユニットの調理専属職員が協力しながら、季節感のある食事を提供している。職員も食卓と一緒に囲み食事介助をしながら、同じ料理を楽しそうに会話をしながら食べている。また、利用者の嚥下状態に応じた食事形態の工夫や椅子を数種類準備するなど、利用者の状態に配慮した食事の提供ができている。月初めは赤飯にしたりお祭り等の行事食を用意したり、おやつ等を利用者と一緒に作るなど、楽しく食事ができるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分補給に関しては、好きなものが飲めるように支援して水分量が確保できるようにしている。利用者の好みを普段の会話から把握して提供し、定時に欲しくない場合は時間を遅らせて支援するなど、一人ひとりに応じた支援をしている。食欲のない場合は無理をせず、好みの食べ物を代用する事もある。看取りで嚥下障害がある方に関しては、その方に合った食事形態を提供しており、咀嚼能力・残歯などの状態を見極めながら、その時の利用者の状態に合った食事形態を提供	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食前うがい、食後には口腔ケアを実施しており、口腔内の清潔保持に努めている。歯科医の往診や歯科衛生士の訪問もあり、口腔内の支援で困ったときはすぐに対応してもらえる医療との連携もできている。グループの取り組みもあり「歯科医療連携室」から歯科衛生士が来て「口腔ケア研修会」を実施したり、全利用者の口腔内チェックや職員に対して支援方法の指導もしてくれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本目標にして取り組んでいる。移動困難者でも、自力で移乗・排泄動作が可能な人は夜間はポータブルトイレを使用して自分で排泄するなど、出来る能力を使いながら、できるだけ下着で生活できる支援をしている。オムツ・尿取りパットの使用に関しては、「本人が気持ちよく過ごせる」ことが重要であり、本人の状態や機能を確認して日々検討見直ししている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者の排泄パターンを把握し、利用者が立ち上がるなどの様子を観察し、タイミングを見計らいトイレ誘導できるよう努めている。日中は布パンツを使用している利用者が多く、サインを見逃さずトイレで排泄できるよう積極的に支援している。夜間は利用者の残存機能を考慮し、ポータブルトイレを利用するなど柔軟に対応している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>水分摂取量の把握・体操・腹部マッサージ・ヨーグルト・バナナ・オリゴ糖・牛乳などで、個々に応じた便秘予防に取り組んでいる。まずは薬に頼らない便秘予防を考え、訪問看護師と情報交換しながら対応している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>その日の体調を見ながら入浴が可能か決めている。同性介助を好む場合は女性に対応して安心して入浴できるように支援している。入浴を嫌がる利用者の場合、順番をかえたり職員を交代したり、なぜ入浴を嫌がるのか考えて取り組んでおり、いやな気持ちで入浴することがないように本人の気持ち大切にしている。お湯の温度・浴槽に浸かる時間・入る順番などできるだけ本人の好みで支援し、楽しい入浴になるように支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者の負担に配慮しながら清潔を保つために、週2～3回入浴できるよう努めており、重度化した利用者でもできる限り入浴できるよう支援している。入浴の苦手な利用者には、好きな歌を歌いながら誘導するなど、無理強いしないよう配慮している。また、ゆずや入浴剤などを入れるなど工夫したり、同性介助を希望の利用者には希望に沿えるようにするなど、利用者がゆっくりと気持ち良く入浴できるよう努めている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>その人の生活のペースで、昼寝したりソファでうたた寝したりもしている。夜間はよく眠れるように日中の活動にも配慮をしている。しかし寝付きにくいときは隣りで会話を楽しんで不安が解消するように寄り添ったり、温かい飲み物を飲んでいただいたり、無理に眠るのではなく気持ちよく眠れるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬情報を確認して、作用・副作用・用法・容量など、薬の知識を得るように取り組んでいる。また薬一覧表を作成し、利用者が何の薬を飲んでいるか理解するように努めており、きちんと内服できたかどうか確認している。受診後の内服薬変更時は、「受診記録」を確認して、なぜ変更になったか理解して対応している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 調理が得意な方、片づけが得意な方、掃除が得意な方、裁縫が得意な方、生け花が得意な方、アイロンかけが得意な方、歌う事が好きな方、ある演歌歌手が好きな方等々、それぞれに好みや役割を持っている。またおしゃべりが好きで皆を楽しませて場を朗らかに盛り上げる事がフロア全体の宝となっている方もいる。一人ひとりの人柄や生活歴を把握して、得意な事が役割・楽しみとして継続できるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 馴染みの美容室に出かけたり、買い物に出かけたり、最近ではデイ利用者と一緒にドライブ・花見・秋祭り・盆踊り・地藏祭り・阿波踊り・小学校運動会・そうめん流しなど外出する機会が増えている。また家族の協力も得ながら外食・お墓参り・ドライブなどの外出支援もしている。1階には保育園があり、2階から降りていく事を楽しみにしている利用者もいる。家族の協力を得て自宅に帰り、地域の顔なじみの方と敬老会で交流できる支援もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の不安が強い利用者は、家族の協力も得ながら、自己管理できるお金の所持・通帳の所持をしていただいている。その方の能力に応じて、受診時の支払いも自分でしていただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 字の書ける方には、交流行事でお世話になった小学生や家族に手紙を書いていたでいる。また親類の方に、元気な声を聞いて（電話）いただいて会話を楽しんでいただく事もある。暑中見舞いや年賀状は利用者が一筆添えて、家族や大切な人に送れるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共有空間はリビング・ダイニング・キッチンと仕切りが無いので、食事作りの音や匂いが漂っている。窓が大きいので外の景色も一望できゆったりと過ごす事ができる。玄関下にはベンチを設置し、小鳥の声や1階の保育園の子供の声を聞いて和やかな時間を過ごせるようにしている。中庭には家族が作ってくれた小鳥の巣箱を設置し、入居者の楽しみになっている。廊下には畳ベンチを設置し、安全の確保と休息・交流の場になっている。リビングのソファに関しては、利用者の動線も考えて配置している。</p> <p>(外部評価) 玄関を入ると左右にユニットがあり、リビングルームは広いスペースが確保され、食事や作業ができるテーブル席やテレビを見ながらゆっくりくつろぐことができる大型のソファ席、またキッチンは仕切りがなく、利用者は自由に行き来ができるようになっている。大きな窓からは明かりが取り入れられ、四季の移ろいを眺めることができる。フロアの中心部に吹き抜け風のベランダがあり、小鳥の巣箱や鉢植えが置かれ利用者が自然と触れ合うことができる。また、代表者の意向で各ユニットにウサギが飼育され、利用者や職員にセラピー効果をもたらしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 広い空間の所々に畳ベンチ・ソファを置き、窓際に机や椅子を設置している。利用者の大切な場所を確保して気持ちよく生活できるように支援している。共用空間の中でも、一人になりたい時、気の合う人同士で一緒にいたい時、思い思いに過ごせる様に支援している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 好みに合わせてベッドではなく布団で寝ている利用者もいる。また家族の協力もあり、入居前に使用していた家具（嫁入り道具の鏡台）やテレビ・家族の写真・好きな歌手の写真・趣味で作成していた刺繍作品等を持参して居室に飾ったりしている利用者もあり、それぞれの利用者が心地よく過ごせる様に支援している。</p> <p>(外部評価) 居室には、ベッドやエアコン、クローゼットが備え付けられている。自宅で愛用していた机や椅子、整理ダンス、テレビ、寝具等を持ち込み、利用者の好みに配置し居心地よく過ごせる空間となっている。家具の上には家族写真や家族からの贈り物などが飾られ、清掃が行き届き清潔に過ごせるよう配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレや自分の個室が分かって移動できるように、表札や目印をつけたり、案内板を設置している。トイレや洗面所近くは、座って安全に順番を待つ事ができるように椅子の設置をしている。日付けは日めくりカレンダーで確認できるように壁に掛けており「分かる工夫」をしている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891300166
法人名	医療法人 健康会
事業所名	グループホームいしかわ
所在地	愛媛県四国中央市上分町861番地20
自己評価作成日	平成28年10月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp
----------	---------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成28年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階には保育園があり、世代を超えた楽しい交流を持つ事ができている。また近隣には関連施設の特養・ケアハウスがあり交流行事も多く、同世代の人や地域の人との交流の場にもなっている。また、母体が医療機関であるため、看護師やリハビリ職員の訪問もあり、医療面に関しては家族や入居者の安心につながっている。住み慣れたグループホームで最期を安らかに迎えられるように看取りの実施も積極的に行っている。今年度は1名の方の看取りを支援した。共用型デイサービス・ショートステイの受け入れも行っており、入居者と地域の利用者がグループホームで交流できる事業所であることが当事業所の大きな特徴である。また今年度は運営推進会議において、「防災について」テーマを絞って一緒に取り組んでいただいている。防災に関しては運営推進会議の場だけでなく、こちらから地域の防災会へ参加して災害に対する知識を向上させており、地域の方(防災士)の協力を得ながら前向きに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、静かな山あいであり四季の移ろいを感じることができる。近隣には、関連施設の特別養護老人ホームやケアハウスがあり、鉄筋2階建ての建物で、1階には保育園があり、2階がグループホームとなっている。法人は地域の医療、福祉事業を広く展開しており、職員の研修参加や指導体制についても、法人として確立されたものがあり、施設内外の勉強会への参加の機会が豊富である。事業所は出産後も仕事が継続できるように子育て支援体制を整えている。運営推進会議に多くの住民の参加があり、地域の防災訓練に参加し災害対策への積極的な取り組みを行うなど、地域との繋がりを築いている。共用型デイサービスを開始し、地元のデイサービス利用者と日中一緒に過ごしながら、和やかな雰囲気暮らしている。医療面では、母体が医療機関のため、訪問看護や往診等の医療連携が充実しており、利用者の健康状態も管理され重度化が進み終末期になっても事業所で暮らし続けたいと希望する利用者が多く高く評価できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームいしかわ

(ユニット名) もみじ

記入者(管理者)

氏名 大倉 やよい

評価完了日 平成 28 年 10 月 31 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 私たちの理念は「ゆっくり・楽しく・いっしょに」であり、覚えやすい文言に職員で話し合っ決めて。共用デイサービス開始で、日々違う個性の方達がふれ合う機会を持つことができおり、入居者様の一人ひとりのペースに合わせるケアの提供やコミュニケーションを大切に、心穏やかに暮せる環境作り、自立支援に取り組んでいる。理念はフロアの目に付くところや玄関に掲示しており、職員会で日頃の介護の反省や今後の取り組みを一緒に検討している。</p> <p>(外部評価) 「ゆっくり」「楽しく」「一緒に」の理念を、職員が話し合いで決めて、事業所のよく見える場所に掲示する他、パンフレットにも記載され、利用者や家族に周知するよう工夫されている。新人職員には、入職時に理念の趣旨を説明し共有するようにしている。職員会で理念について話し合いを行い、利用者の日々の暮らしを支えている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 法人が地域との交流を大切にしており、他事業所と合同敬老会・盆踊り会・そうめん流し・六地藏法要・秋祭りなどで、地域の方と交流している。近隣に民家は少ないが地域の方に事業所に来てもらう取り組みをしている。月1回の音楽療法のボランティア来所時は、法人の他デイサービスの方の参加もある。また1階の附属保育園児との交流会、小学生との七夕会や運動会参観、高校生のインターンシップ受け入れは恒例となっている。また共用デイサービスの方が毎日利用されており、日々地域の話が豊富となり「地域とつながっている」思いをもって生活できるように支援している。</p> <p>(外部評価) 母体法人の老人保健施設に来所する秋祭りの太鼓台や神輿を見学に行き地域住民と交流している。事業所1階の保育園との交流や小学校の七夕会や運動会などの行事への参加、小学生の体験学習で訪問があり、昔の遊びをしたりして利用者の楽しみとなっている。福祉や高齢者介護に興味のある高校生を夏休みの3日間インターンシップで受け入れをしたり、専門学校や音楽療法のボランティアの訪問などもある。地域の運動会の玉入れに参加したり、共用型デイサービスを利用する地元の利用者と日中一緒に過ごすなど、地域住民との交流を積極的に行っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 高校生のインターンシップ受け入れを行い、介護や認知症に対する理解が深められるように貢献している。2年前にインターンシップを経験した高校生が、今年度法人の老人保健施設に入職した。グループ内で「地域で認知症の人を支える」チーム「みかんの会」を発足しており、職員がリーダーとして運営に携わっている。地域の方対象の「認知症カフェ」の開催や地域の方と一緒に「認知症勉強会」の開催を行なっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 入居者様の変化やグループホームの取り組み等を報告し、それに対するご意見をいただいている。地域で困っている認知症の方の話題にもなり、「認知症の対応の仕方」の勉強会も実施した。 今年度は、防災に対する取り組みを中心に運営推進会議を開催している。地元の方ばかりなので、グループホーム周辺の立地条件や環境を一緒に見て回っていただいて留意箇所を指導していただいたり、地域の防災会の情報をいただいて参加させていただいている。また消防署出前講座「地震・防災対策講座」をグループホームで開催し、一緒に参加していただいた。 今後は、運営推進会議で災害避難訓練を実施し、グループホームの自主的な災害対策と一緒に考えて、マニュアルに生かすことができるように計画している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には、利用者や家族、消防団員、老人会、婦人会、公民館長、民生委員、市職員、養護老人ホーム看護師、神社の総代等様々な参加を得ている。会議では利用者情報及び行事報告を行うと共に、年間計画を立てたり、災害をテーマにした講演等を行うなど、会議の充実を図っている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 市消防署主催の出前講座「防災」「救命救急」を開催して市と連携がとれる取り組みをしており、当事業所に特化した取り組みの助言をもらっている。またキャラバンメイトの資格のある職員が、市からの依頼で「認知症サポーター養成講座」で講師を務めており、地域で認知症理解が進むように協力関係を築いている。毎月1回、ふれあい相談員の訪問もあり。グループで「認知症カフェ」を開催しており、職員がこの取り組みに参加しており、市の方へも浸透している。地域の方に「認知症理解」「認知症介護で困ったら相談ができる」態勢作りをグループで取り組み、グループホーム職員も参加・協力している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議に市担当者が参加し事業所の実情を把握するほか、情報の提供や助言を行っている。毎月ふれあい相談員が訪問し、利用者との会話で大事な情報は職員に伝えておりサービス向上に繋がっている。グループホームの交流会があり、他の事業所との情報交換も行っている。事業所職員が認知症サポーターに登録しており、年1～2回のペースで市の開催する「認知症サポーター養成講座」で講師を担うなど、地域住民に認知症の理解が深められるよう努めている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体拘束に関しては外部研修に出かけ、伝達講習・勉強会を実施している。全職員が「身体拘束は絶対にしてはならない」意識を常に持ちつつ理解を深めている。「こういう行為は身体拘束にならないか。その支援は適切なのか。」と普段の何気ない支援についても職員同士で振り返り、利用者の立場に立った身体拘束のない支援を常に意識付けしている。</p> <p>(外部評価) 法人内のリスク委員会が月1回あり、職員が参加し身体拘束について理解を深めると共に、外部研修に参加し、職員会で伝達講習や勉強会をするなど取り組んでおり、全職員に身体拘束をしないケアが根付いており実践できている。言葉の拘束にもなる「ちょっと待って」などに関しても、職員間で話し合いを行い共有できている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 外部研修を受けて伝達講習して理解を深めている。また四国中央市で作成した「高齢者虐待マニュアル」を活用したり、「高齢者虐待防止法」の勉強会も開催している。何気ない言葉かけやコミュニケーションをとる際も利用者の尊厳を大切に、あらゆる面から虐待行為ではないか振り返るようにしている。同時に職員のストレスについても留意し、気持ちの発散ができるように話し合う機会を持っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護や成年後見制度の勉強会を実施し、学ぶ機会を設けている。現在活用される入居者様はいないが、今後必要性の高い方がいる場合は、速やかに活用して支援できるように研修を継続する。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前にはご家族とご本人様に来ていただき、見学していただきよく検討していただきから契約を結んでいる。施設の環境や生活様式、グループホームの支援等を説明させていただいている。体験利用を希望される方には体験していただき、納得した上で契約をしていただいている。契約時は説明項目のチェック表を利用し、説明忘れが無いように留意している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会のあるご家族も多く、面会時は状況報告を必ずしている。また毎月ご家族にお便りを送付し、入居者の様子報告をしている。アンケートも実施しており、要望をケアに生かせるように取り組んでいる。「リハビリができたら・・・」というご家族の希望もあり、法人訪問リハビリ職員の協力のもとADL低下防止のために定期でグループホームへの訪問があり、医療スタッフとも連携している。 (外部評価) 利用者には日々の暮らしの中で、家族には面会時や運営推進会議等で要望や意見を聞き記録に残し職員間で話し合い、サービス向上に生かしている。また、家族アンケートを実施し意見や要望を集約するほか、年2回家族会を開催し、イベント後に各ユニットで茶話会を行い、家族同士で話し合ったり職員も参加し個別に話すなど、和やかな雰囲気の中で交流している。年2回いしかわ便りを発行しそれを家族に送付し、利用者の日常生活の様子を報告している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者も現場の介護をしており、職員と同じ立場での利用者様へのケアや課題に気づくようにしている。また、少しでも負担軽減できるように職員の意見を聞く機会を多く持っている。利用者の支援に関することはリーダーが中心になって必ずユニットで話し合っている。直接管理者に意見を言い難い職員には、リーダーをワンクッションにしている。職員の思いを聞き、相談しやすい人材をリーダーとして配置している。法人本部長や次長もグループホーム職員会に参加する機会があり、直接意見を伝えることができる。 (外部評価) 職員全員と法人代表者も参加の職員会を毎月1回開催し、運営に関する意見を出し合い代表者に職員の業務状況等を把握してもらったところ、現場の意見を反映し調理専属の職員配置に繋がった経緯もある。年2回管理者と職員は個人面談を行い意見を聞く機会を設けている。職員が資質向上を図るための研修に参加しやすいよう、参加費の補助や勤務調整を行うなどの配慮がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 人事考課制度を導入している。有資格者には手当を支給したり、夜勤手当を増やした。また勉強会の講師になった職員や受講した職員にも手当を出すなど、法人全体で取り組んでいる。 ケアマネ・介護福祉士取得のためにグループ内で試験対策講座を開いて、向上心をもって働けるように支援している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 人事考課制度を導入し、管理者含め一人ひとりの力量を把握している。資格取得に向けた支援や外部研修は本人の自主性を尊重して参加できるように支援している。グループ内勉強会・外部研修に関しての情報は回覧で各職員に情報提供している。部署内・法人勉強会は、年間計画を立てて実施し、介護技術の向上・認知症ケアの向上・リスク・感染予防など、介護職として働く上で知識向上に繋がるテーマで教育している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 市内でグループホーム交流会を設立し、3ヶ月に1回の勉強会・情報交換を持ち回りで開催している。また今年度からは、グループ内の3グループホームが集まり、職員交流や情報交換などでネットワーク作りをしている。 また、愛媛県地域密着型サービス協会に入会しており、研修会に参加し、他グループホームとの意見交換もして当事業所に活かすことができないか検討している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス前は見学・体験利用等をして頂き、本人とじっくりコミュニケーションを図って、思い・要望に耳を傾けている。デイ利用からショート利用、そして入居となった方がいた。デイ・ショートですでに本人と信頼関係も築けており、なじみの関係を構築しながら入居につなげることができた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 自宅訪問・利用中のサービス事業所・担当ケアマネからそれぞれが得ている情報に耳を傾けている。 またデイ利用の方が入居になる場合もあり、すでに家族の困っていること・不安なことなどを相談にのりながら支援しているので、入居時は家族とも信頼関係を築く事ができている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居初期段階では、これまで関わってきた担当ケアマネ・他事業所との情報交換を行い、背景にある問題を見極めたり支援内容を検討して支援に活かしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活を送りながら、会話を大切にしながら顔なじみの関係を築くことを大切にしている。いっしょに洗濯干し・畳み、掃除、調理、食器洗いなど利用者ができることを、一緒に楽しみながら行っている。主婦の大先輩として、家事や子育ての話を聞いていただいたり相談相手になっていただき、お互いに寄り添う関係作りを築いている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族に勝る介護者は無く、これまでの苦労や葛藤を心に留めて、家族や利用者支援している。そのため家族には利用者の様子をきめ細かく伝え、相談をしているため、一緒に利用者を支える協力体制を築く事ができている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 職員が支援できない点に関しては、家族協力のもと、家族と一緒に外食・お墓参り・地区敬老会・趣味の刺繍展への外出支援等がある。馴染みの美容室への外出は美容室の方のお送り迎えがあり、美容室でゆっくりお茶を飲んで楽しい時間を過ごされている。入居前の生活習慣を大切にしている。 外出先に関しては、本人の日常発せられる言葉から汲み取って馴染みの人に会える支援もしている。 外出が難しい利用者には、面会に来てくれる地域の人もある。 (外部評価) 入居前から利用していた馴染みの美容室の利用は、美容室が送迎をし、ゆっくりとお茶を飲んで会話を楽しめるなどの配慮があり、継続できるよう支援している。家族の協力を得てお墓参りや自宅に帰り地域のサロンに出かけることができている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 居室にいる利用者には必ず声かけをして、孤立しないように支援している。また仲の良い人同士で会話したり食事したりできるように、食堂やソファの座席には十分留意している。利用者同士の関係性は理解しており、コミュニケーション可能な人に関しては好きな席を聞いて配慮し、意思疎通が困難な人に関しては表情や性格を汲み取って座席を配慮している。 デイが開始され新しい関係性も広がっている。活動的で社交的なデイの方が、入居者の気持ちに寄り添ってくれる場面も多い。 時に意見のぶつかり合いもあるが、それも「自分の思いを表現することができる」大切なことであり、大きなトラブルにならないようにまた辛い気持ちを継続しないように見極めて支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居された方には色紙等を持って面会に行っている。また他施設に入所された場合は、その施設にその後の様子等を聞いたり必要な情報を提供している。入院中に退居となった方は、今後のサービスについて主治医や家族・病院相談員・施設職員等とも連携をとって支援している	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 普段何気ない会話も大切にし、利用者の思いの把握に努めている。ちょっとした要望でもすぐに耳を傾け、職員間で思いの実現につなげられるように取り組んでいる。家族からの情報も職員間で共有して本人の意向把握に努めている。思いを伝える事が困難な場合は表情から汲み取って、返答しやすい質問にしたり職員を交代するなどの工夫をして、本人気持ちに沿った支援をしている。 (外部評価) 利用者の思いや意向を把握するため、日頃の会話や家族からの情報などから、利用者が何がしたいか等常に考えながら把握に努めている。新たに知り得た情報は、職員間で共有し業務に生かしている。意思疎通が困難な利用者は表情から汲み取るなど、利用者の思いや意向が叶えられるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴やライフスタイルを、家族にも協力してもらって情報を得ている。また、利用していたサービス事業所やケアマネからも情報を得ている。また、普段の何気ない会話の中からその人の馴染みの暮らし方などがわかる時もあり、職員間でその情報は共有して支援につなげている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その日その日の利用者の心身状態（排泄・睡眠・食事・気持ちの変化等）を、日々職員間で情報共有している。1日の過ごし方の決定は本人にある。無理強いないで、できない部分を介助しながら見守りながら支援している。ADLが低下している利用者に対しては、法人の訪問リハビリスタッフに協力してもらい、少しでも出来る事を見つけて継続できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 人生の主演は利用者である事を忘れずに、日々の利用者や家族との関わりの中で、利用者の言葉や気づきを大切に記録に残し、介護計画に反映している。日々の記録は利用者が発した言葉を残すように心がけている。毎月1回のフロア会では意見交換やモニタリングを行い、状態が変化した場合はその都度介護計画の見直しをしている。 (外部評価) 利用者や家族の意見を反映し職員間で話し合いを行い、計画作成担当者が介護計画を作成している。介護記録の実践記録を確認し、月に1回モニタリングを行い検証している。また、6か月毎に介護計画の見直しを行い、状態の変化があればその都度見直しを行っており、介護計画は面会時に家族に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の日々の記録は、個々の処遇記録や支援経過に記載して情報を共有している。ケアの気づきや工夫などは申し送りノートを活用して共有している。個別記録等をもとにフロア会では職員間で意見を出し合い、今後の支援内容や介護計画の見直しにつなげている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 看取り利用者に関しては、家族が宿泊を希望された場合はそのニーズに応えたり、主治医の話を知りたいと希望された場合はその日のうちに主治医に往診していただく連携をとった。歯科受診が困難な利用者の場合は往診を依頼した。また、ADLが低下している利用者に関しては、訪問看護と連携して定期でリハビリ職員に来てもらい助言をもらっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の音楽ボランティアの協力を得て、定期で音楽療法を支援している。関連事業所デイと一緒に交流しながらの活動であり地域の高齢者との交流にもつながっている。日々の生活では地域の美容室に出かけたり、運営推進委員の方や家族が気軽に野菜を届けてくれたり、地区の小学校から運動会の招待を受けて参観したりしている。今後は小学校で開催される地区の防災会に参加する予定もある。地域との関わりを大切に支援する取り組みをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 母体医療機関が主治医である利用者が多いが、母体病院以外の受診も可能な限り 同行している。主治医には情報提供に努めている。家族との受診の場合は、 体調面の情報提供を十分に家族に行い、受診後の医師からの診察内容を家族か ら聞いて記録し、職員で共有している。歯科受診が困難な利用者には歯科医の 往診、歯科衛生士の訪問も支援している。 (外部評価) 母体医療機関が主治医である利用者が多く、病院受診は家族の協力も得ながら 職員が付き添い支援している。耳鼻科や眼科等の専門外来に通院する場合は、 家族と相談し職員が付き添うなど支援しており、医療情報は家族も共有できて いる。また、歯科医の往診や歯科衛生士の訪問もあり、適切な医療が受けられ るよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 医療連携にて、法人の訪問看護師が訪問している。体調や些細な変化を見逃さ ないように早期発見に取り組んでいる。気づいたことがあれば看護師に相談し て適切な医療につなげたり、介護に対する助言を受けている。24時間対応で あるため夜間も必要に応じて訪問したり、早急で適切な対応ができるように看 護師と協働している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は医療機関へ情報提供を行い、グループホームでの状態・認知面につい て詳しく伝えている。入院中も頻回に病院へ行き状態を把握している。医師・ 看護師・ソーシャルワーカー・リハビリ・栄養士等と退院に向けての情報交換 をし、できるだけ早期の退院につなげられるように支援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 「終末期意向確認書」を作成し、入居前より本人・家族と話し合いを個別に前もって意 向を確認している。しかし家族の気持ちは揺れ動く事が多い事を理解し、本人の状態が 悪化したりADLが低下しつつある時は、その都度話し合いを持つようにしている。家 族は医師からの病状説明を直接受ける事ができるように主治医とも連携を図り、家族の 意向を確認しながら「看取りに関する指針」を再度説明している。終末期に関する勉強 会を開催し、外部研修・伝達講習を行うことで職員間で看取りに関する取り組みを共有 できるようにしている。訪問看護師とも日々連携を図っており、一昨年は2名、今年度 は1名の方の看取りを支援した。スタッフ・家族に対してアンケートを実施し、看取り 前後の不安や反省、家族の気持ちを共有する事で今後の看取りに活かすことができ るように取り組んでいる。今年度は訪問看護師ともデスクカンファレンスを開催し、チームで 支援する事の重要性を再認識した。 (外部評価) 事業所での終末期ケアを希望する場合は、医療機関や訪問看護等と医療連携を 図り、協力を得ることができている。医療関係者や家族の協力を得ながら看取 りを経験した職員もおり、利用者や家族が納得し安心して最期を迎えられるよ う支援している。また、看取り後に家族と職員にアンケート調査を行ってお り、結果について職員全員で話し合い職員の不安の軽減や家族の思いや意向に 沿った支援ができるような体制づくりを行い、終末期ケアの充実に努めている 。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生時対応マニュアルを作成し周知している。看取りの場合は、もっと細部の対応方法を作成し全員がすぐ対応できるように取り組んだ。また、緊急時の初期対応ができるように消防出前講座「救命救急」を受講し、実践力を身につける取り組みをしている。緊急時の対応に不安があっても24時間訪問看護師との連携ができており、的確な助言を受ける事ができるので職員の不安は少ないので、急変時は落ち着いて対応できている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 夜間想定で消防署立会いの消防避難訓練（総合訓練）を年2回実施している。また今年度は運営推進会議において「グループホームの災害時の対応」についてテーマを絞って取り組んでいる。消防出前講座で「地震防災対策講座」を一緒に受講したり、「自分たちのグループホームはまず自分たちで守る」姿勢で地域の方に意見を聞きながら取り組んでいる。グループホーム周辺を見回って危険か所がないか助言をいただいたり、災害避難訓練を推進委員のみならず防災会の方に見ていただき助言をいただく計画がある。職員も積極的に地域主催の防災会に参加して、防災に関する知識を増やしている。 (外部評価) 年2回の避難訓練を消防署立会いで実施している。運営推進会議でも議題に取り上げ、参加者から意見を出し合い改善への取組みを行っている。事業所の災害防止マニュアルを防災の専門家からアドバイスを受け見直したり、備蓄品も完備されており緊急時の対策もできている。職員が地域の防災訓練にも積極的に参加するなど、地域との連携も図っている。災害時の緊急連絡網は整備されているが、実践訓練は行っていないので今後の課題である。	災害時の地域の防災会との協力体制は構築されている。職員の災害対策についての意識は高く、緊急連絡網を整備し職員の連絡手順は伝えているが、実践には至っていないため、連絡体制の再確認をする意味でも実践訓練を行い職員に周知徹底ができることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) その人に合った言葉かけを心がけている。排泄時はさりげない声かけをし、尊厳を大切にされた対応を心がけている。入浴時や入室の場合もプライバシー保護に努めている。男性職員を嫌がる利用者には女性スタッフでの対応をしている。利用者の呼び方に関しては、方言を使いながらも留意しその人が安心する呼称の仕方に対応しており、統一した呼称の仕方をするように取り組んでいる。また今年度より法人で「接遇チェックリスト」を毎月自己評価・他者評価する取り組みをしており、利用者を尊重する姿勢を振り返り向上できるようにしている。 (外部評価) 職員は思いやりのある言葉遣いをするよう心がけ、尊厳と羞恥心に配慮したケアに努めている。法人の教育部長の指導のもと「接遇チェックリスト」により、毎月自己評価を行うなどの取組みを行っており、職員一人ひとりに意識付けができています。また、個人情報については厳重に管理されており、取り扱いについても十分留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 普段の何気ない会話から、思いや希望（食べたい物・行ってみたいところ・やってみたい事等）を聞きだせるようにコミュニケーションを図っている。また、言葉には表現できなくても表情などを注意深く見させていただき、本人の思いをキャッチできるように関わっている。職員会・フロア会では各職員が情報を持ち寄って、本人の思いをひもときながら支援内容を共有できるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的に1日の流れはあるが、体調や気分配慮しながら支援している。お風呂は中止したい・もう少し眠りたい・夜もテレビを観たい・家族の声が聞きたい・今押入れの整理をしたい・となりのフロアに行きたい・今日は栗拾いに行きたい・・・などその時の気持ちを大切にしながら、1日のペースを大切にしながら一人ひとりに合わせて支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 馴染みの美容室でカラー・カットしたり、自宅に帰って家族に毛染めしてもらったり、訪問理容師が来た時はお気に入りのヘアスタイルが維持できるように協力を仰いでいる。大好きなお気に入りの洋服がすぐ着れるようにさりげなく準備したり、家族の協力で洋服を買いに出かけたりもしている。受診時はおしゃれしたい人には、受診に行く事を前もって伝えておき、ゆっくりお気に入りの洋服を選んだりお化粧ができるように見守って支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理専属の職員はいるが、食事を作るだけでなく台所に立ちたい利用者がいた場合は、一緒に利用者としてできるような支援をしている。メニューの基本は法人管理栄養士が立てているが、自然に囲まれた立地条件もあり、近隣の山で採った季節の栗や筍などは一緒に下ごしらえして献立を考え、職員と一緒に食卓を囲んで季節を感じながら楽しく食べる事ができている。家族が差し入れしてくれる野菜は、その利用者を中心となって下ごしらえしたり調理をしている。 (外部評価) 法人の管理栄養士が献立を立て、食材は法人で注文し配達されており、各ユニットの調理専属職員が協力しながら、季節感のある食事を提供している。職員も食卓と一緒に囲み食事介助をしながら、同じ料理を楽しそうに会話をしながら食べている。また、利用者の嚥下状態に応じた食事形態の工夫や椅子を数種類準備するなど、利用者の状態に配慮した食事の提供ができている。月初めは赤飯にしたりお祭り等の行事食を用意したり、おやつ等を利用者と一緒に作るなど、楽しく食事ができるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分補給に関しては、好きなものが飲めるように支援して水分量が確保できるようにしている。利用者の好みを普段の会話から把握して提供し、定時に欲しくない場合は時間を遅らせて支援するなど、一人ひとりに応じた支援をしている。食欲のない場合は無理をせず、好みの食べ物で代用する事もある。看取りで嚥下障害がある方に関しては、その方に合った食事形態を提供しており、咀嚼能力・残歯などの状態を見極めながら、その時の利用者の状態に合った食事形態を提供できるように支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食前うがい、食後には口腔ケアを実施しており、口腔内の清潔保持に努めている。歯科医の往診や歯科衛生士の訪問もあり、口腔内の支援で困ったときはすぐに対応してもらえる医療との連携もできている。グループの取り組みもあり「歯科医療連携室」から歯科衛生士が来て「口腔ケア研修会」を実施したり、全利用者の口腔内チェックや職員に対して支援方法の指導もしてくれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本目標にして取り組んでいる。移動困難者でも、自力で移乗・排泄動作が可能な人は夜間はポータブルトイレを使用して自分で排泄するなど、出来る能力を使いながら、できるだけ下着で生活できる支援をしている。オムツ・尿取りパットの使用に関しては、「本人が気持ちよく過ごせる」ことが重要であり、本人の状態や機能を確認して日々検討見直ししている。</p> <p>(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し、利用者が立ち上がるなどの様子を観察し、タイミングを見計らいトイレ誘導できるよう努めている。日中は布パンツを使用している利用者が多く、サインを見逃さずトイレで排泄できるよう積極的に支援している。夜間は利用者の残存機能を考慮し、ポータブルトイレを利用するなど柔軟に対応している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 水分摂取量の把握・体操・腹部マッサージ・ヨーグルト・バナナ・オリゴ糖・牛乳などで、個々に応じた便秘予防に取り組んでいる。まずは薬に頼らない便秘予防を考え、訪問看護師と情報交換しながら対応している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) その日の体調を見ながら入浴が可能か決めている。同性介助を好む場合は女性に対応して安心して入浴できるように支援している。入浴を嫌がる利用者の場合は、順番をかえたり職員を交代したり、なぜ入浴を嫌がるのか考えて取り組んでおり、いやな気持ちで入浴することがないように本人の気持ち大切にしている。お湯の温度・浴槽に浸かる時間・入る順番などできるだけ本人の好みで支援し、楽しい入浴になるように支援している。</p> <p>(外部評価) 利用者の負担に配慮しながら清潔を保つために、週2～3回入浴できるよう努めており、重度化した利用者でもできる限り入浴できるよう支援している。入浴の苦手な利用者には、好きな歌を歌いながら誘導するなど、無理強いないよう配慮している。また、ゆずや入浴剤などを入れるなど工夫したり、同性介助を希望の利用者には希望に沿えるようにするなど、利用者がゆっくりと気持ち良く入浴できるよう努めている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) その人の生活のペースで、昼寝したりソファでうたた寝したりもしている。夜間はよく眠れるように日中の活動にも配慮をしている。しかし寝付きにくいときは隣りで会話を楽しんで不安が解消するように寄り添ったり、温かい飲み物を飲んでいただいたり、無理に眠るのではなく気持ちよく眠れるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬情報を確認して、作用・副作用・用法・容量など、薬の知識を得るように取り組んでいる。また薬一覧表を作成し、利用者が何の薬を飲んでいるか理解するように努めており、きちんと内服できたかどうか確認している。受診後の内服薬変更時は、「受診記録」を確認して、なぜ変更になったか理解して対応している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 調理が得意な方、片づけが得意な方、掃除が得意な方、裁縫が得意な方、生け花が得意な方、アイロンかけが得意な方、歌う事が好きな方、ある演歌歌手が好きな方等々、それぞれに好みや役割を持っている。またおしゃべりが好きで皆を楽しませて場を朗らかに盛り上げる事がフロア全体の宝となっている方もいる。一人ひとりの人柄や生活歴を把握して、得意な事が役割・楽しみとして継続できるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 馴染みの美容室に出かけたり、買い物に出かけたり、最近ではデイ利用者と一緒にドライブ・花見・秋祭り・盆踊り・地藏祭り・阿波踊り・小学校運動会・そうめん流しなど外出する機会が増えている。また家族の協力も得ながら外食・お墓参り・ドライブなどの外出支援もしている。1階には保育園があり、2階から降りていく事を楽しみにしている利用者もいる。家族の協力を得て自宅に帰り、地域の顔なじみの方と敬老会で交流できる支援もしている。 (外部評価) 買い物など利用者の希望に応じ外出できるよう努めている。年間計画を立て、法人の公用車を借り大勢で外出できるよう支援しており、季節によっては花見や阿波踊り、秋祭り等にも出かけるなど、利用者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の不安が強い利用者は、家族の協力も得ながら、自己管理できるお金の所持・通帳の所持をしていただいている。その方の能力に応じて、受診時の支払いも自分でしていただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 字の書ける方には、交流行事でお世話になった小学生や家族に手紙を書いていただいている。また親類の方に、元気な声を聞いて（電話）いただいて会話を楽しんでいただく事もある。暑中見舞いや年賀状は利用者が一筆添えて、家族や大切な人に送れるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共有空間はリビング・ダイニング・キッチンと仕切りが無いので、食事作りの音や匂いが漂っている。窓が大きいので明るくて外の景色も一望できゆったりと過ごす事ができる。玄関下にはベンチを設置し、小鳥の声や1階の保育園の子供の声を聞いて和やかな時間を過ごせるようにしている。中庭には家族が作ってくれた小鳥の巣箱を設置し、入居者の楽しみになっている。廊下には畳ベンチを設置し、安全の確保と休息・交流の場になっている。リビングのソファに関しては、利用者の動線も考えて配置している。</p> <p>(外部評価) 玄関を入ると左右にユニットがあり、リビングルームは広いスペースが確保され、食事や作業ができるテーブル席やテレビを見ながらゆっくりくつろぐことができる大型のソファ席、またキッチンは仕切りがなく、利用者は自由に行き来ができるようになっている。大きな窓からは明かりが取り入れられ、四季の移ろいを眺めることができる。フロアの中心部に吹き抜け風のベランダがあり、小鳥の巣箱や鉢植えが置かれ利用者が自然と触れ合うことができる。また、代表者の意向で各ユニットにウサギが飼育され、利用者や職員にセラピー効果をもたらしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 広い空間の所々に畳ベンチ・ソファを置き、窓際に机や椅子を設置している。利用者の大切な場所を確保して気持ちよく生活できるように支援している。共用空間の中でも、一人になりたい時、気の合う人同士と一緒にいたい時、思い思いに過ごせる様に支援している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 好みに合わせてベッドではなく布団で寝ている利用者もいる。また家族の協力もあり、入居前に使用していた家具（嫁入り道具の鏡台）やテレビ・家族の写真・好きな歌手の写真・趣味で作成していた刺繍作品等を持参して居室に飾ったりしている利用者もおり、それぞれの利用者が心地よく過ごせる様に支援している。</p> <p>(外部評価) 居室には、ベッドやエアコン、クローゼットが備え付けられている。自宅で愛用していた机や椅子、整理ダンス、テレビ、寝具等を持ち込み、利用者の好みに配置し居心地よく過ごせる空間となっている。家具の上には家族写真や家族からの贈り物などが飾られ、清掃が行き届き清潔に過ごせるよう配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレや自分の個室が分かって移動できるように、表札や目印をつけたり、案内板を設置している。トイレや洗面所近くは、座って安全に順番を待つ事ができるように椅子の設置をしている。日付けは日めくりカレンダーで確認できるように壁に掛けており「分かる工夫」をしている。</p>	